



のびのび若っ子

「習い事」

教務主任 青木 一敏

何気ない会話の中で、「先生は、小学校の時どんな習い事してたの？」と聞かれたことがありました。「うーん、サッカーでしょ、野球、バスケットボール、それと・・・英語かな」私が「英語」と言った瞬間、その場にいた子どもたち全員が声をそろえて、「えええ、うそだー」と反応しました。誰一人ずれることなく響いたその声に、いつも以上にクラスが一つになったような気がしました。

実は今思うと、私はこの英語という習い事が心の底から嫌いでした。ただ、誤解してほしいのは英語が嫌いではないんです。今でも、子どもたちとの英語の授業は大好きです。嫌いだったのは、その授業内容でした。テキストの○ページ～○ページまでを暗記してみんなの前で発表する。間違えたり、覚えてなかったりしたら、先生が鬼の形相で頭の前からつま先までをゆっくり上下運動で見続け、私の焦っている表情をスクールの生徒が見つめる。それが毎週続きました。というわけで、私の英語の習い事は1年で幕を閉じました。ここでふと疑問に思ったことが・・・「なぜ、習い事に通うことになったのか」ということです。タイミングよく夏休みでしたので、母親に尋ねてみました。幼少期の私は、英語の歌が好きだったようで、母親の流すカセットテープの英語の歌をロずさんだり、リズムに乗ったり、テレビで流れている単語を繰り返すなど、楽しそうに英語に親しむ姿が見られたことからスクールに通うことになったそうです。もし、私が暗記の壁を越えられたら、もっと英語の能力は高まったのか、もっと英語を好きになれたのか、もっと続けることができたのか、今でも答えは出ないままです。ただ、英語をやめたいと言った時、母は何も言わなかったことを今でも覚えています。

現在、複数の民間調査によると、習い事をしている小学生は70～85%程度とされており、多くの子どもたちが習い事に取り組んでいます。きっかけや目的は、ご家庭によってさまざまです。ただ、通っている子ども本人はどんな思いをもち、何が、どのようにできるようになりたいのでしょうか。子どもたちは、「指導者に厳しく指導されても、自分のために頑張りたい」と言います。

夏休み明けも、子どもたちが「楽しい」「もっと学びたい」と感じられるような教育活動を進め、意欲的な学びにつなげていきたいと思います。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』